



今月のテーマ

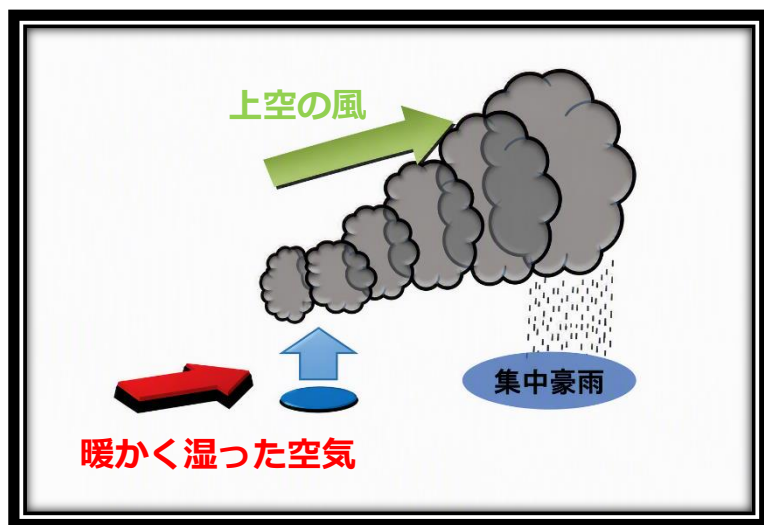
線状降水帯



線状降水帯ってなに？

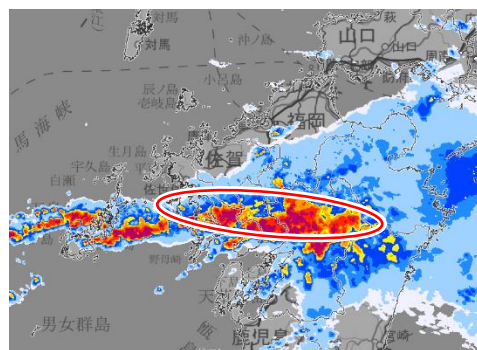
線状降水帯とは、線状に伸びる降水域が、数時間にわたりほぼ同じ場所に停滞し続けることで、大雨をもたらす現象です。気象庁ホームページでは、線状降水帯が発生した場合に、その雨域を赤い楕円で表示します。発生メカニズムは未解明な点も多く、気象庁では線状降水帯の予測精度向上のため、継続的な研究を続けています。

線状降水帯のメカニズム



暖かく湿った空気が持ち上げられて発達した積乱雲が、上空の風で次々と同じ方向に並ぶことで発生するよ

気象庁ホームページ内の「雨雲の動き」・「今後の雨」に楕円を表示



線状降水帯の危険性について

線状降水帯が発生すると、発達した積乱雲が列をなして次々と通過するため、同じ地域で大雨が数時間続きます。そのため、大雨による災害（土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫など）が発生する危険性が急速に高まります。

近年では、

- ・平成29年7月九州北部豪雨（朝倉市や東峰村を中心に甚大な被害）
- ・令和2年7月豪雨（球磨川の氾濫）
- ・令和5年7月の大雨（筑後川支流の氾濫、久留米市の土砂災害など）

などの事例で、線状降水帯が発生して大雨をもたらしました。



線状降水帯に関する情報について

気象庁では、線状降水帯が発生する可能性を事前にお知らせする情報と、実際に線状降水帯が発生したことをお知らせする情報を発表しています。

これらの情報が発表された際は、以下の図の中の「**発表時の行動のポイント**」を参考に、適切な防災行動をお願いします。

情報の種類については
2026年3月号をチェック！



線状降水帯に関する情報

発表時の行動のポイント

気象解説情報（線状降水帯**半日前予測**）
線状降水帯が発生する可能性あり

～半日程度前

大雨に対する心構えを一段高め、
避難準備等、災害に備える

気象防災速報（線状降水帯**直前予測**）
線状降水帯が発生する可能性が高まる

～3時間前

周辺状況や自治体の避難情報等もふまえ、
避難など適切な防災行動をとる

気象防災速報（線状降水帯**発生**）
線状降水帯発生！

30分前
～現在

自治体からの避難情報や周辺状況を確認し、
速やかに安全確保
※警戒レベル4相当以上の状況です

時間



9月1日は「防災の日」です



防災の日は、自然災害への備えと認識を深めるために、9月1日に制定された日本の啓発日で、これは1923年（大正12年）に発生し、甚大な被害が出た関東大震災にちなんだものです。関東大震災の教訓や台風シーズンの危険性を踏まえ、全国で防災訓練や啓発活動が行われています。

9月1日の「防災の日」を含む1週間は「防災週間」です。この機会に、災害への備えについて、一人ひとりが家庭や学校、地域で改めて考えてみましょう。

ご意見・ご感想をお待ちしています



問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp



気象の警報などが大きく変わりました

次回の発行は2026年10月の予定です。お楽しみに！